

2016年8月22日開院

# 華岡青洲の精神を受け継ぎ、高い志と最新医療で病に挑む

〔華岡青洲記念 心臓血管クリニック〕

## 華岡青洲の名を継ぐ クリニックを開院

―病院名にある華岡青洲とは、どういう人物でどのような関わりがあるのですか。

**五十嵐** 華岡青洲は江戸時代に活躍した外科医で、世界で初めて全身麻酔下で外科手術（乳がん手術）を成功させたことで知られています。

「華岡青洲の妻」(有吉佐和子著)という小説では、実母や姉、妻の献身的な協力なしでは、この成功も成されることはなかったものとして描かれています。私の妻が華岡家の直系の二人姉妹の長女で麻酔科医をしています。華岡家の名前を継ぐクリニックを開院することにしました。医者としても九代目を務めることになりました。

青洲は1760年生まれです。から私より200年ほど前に生まれた人物です。女性性乳房を取ったら死ぬと思われていた時代に、全身麻酔で乳がん手術をするという偉大な業績がありますが、当時の手術は麻酔がないわけですから阿鼻(あび)叫喚(けうわん)のような惨状です。生き延びるためには、激痛に耐えなくてはならないわけです。それでは手術を受けるためのハードルが患者さんにとって高すぎます。それを克服するためにさまざまな薬草などを調べて、苦惱の中で麻酔薬を作り出していくわけですが、副作用との闘いのために調べと動

物実験を何十年も繰り返します。そして実験台になることを申し出た実母と妻に数回にわたる投与の末、「通仙散」と呼ばれる全身麻酔薬を完成させます。実母の死、妻の失明といった犠牲があったからこそ、完成にこぎ着けられたのだと思います。

## 最先端の検査・治療機器で 最新の医療を提供

―華岡青洲記念 心臓血管クリニックでは、どのような医療を受けられるのでしょうか。

**五十嵐** 非侵襲(ひんげん)というのが一つのテーマです。病気がどうか調べるといことは、放射線(ほうしゃせん)を浴びせたり体の中に管を入れたりといった侵襲(いんげん)行為をします。病気を発見(はっけん)とさないよう確実に診断(しん断)することを心がけていますが、非侵襲(ひんげん)を求めながらも侵襲(いんげん)を避(よ)けられない患者(けしや)さんの体(てい)にできるだけ負担(ふたん)を掛(か)けず、より精度(せいど)の高い診断(しん断)、治療(ちりょう)をしていきたいと考えています。そのためにも、より精度(せいど)が高い最先端(最先端)の検査・治療機器(けんさ・ちりょうき)が必要(ひつや)で、放射線(ほうしゃせん)被爆(ひばく)量を大幅(たふく)に低減(ていげん)した血管造影装置(けっかんさうえいさうじ)や、血管造影(けっかんさうえい)をしなくても診断(しん断)を可能(可能)にする最新鋭(さいしんえい)のCT(コンピュ)ーター断層撮影装置(たんそうさつえいさうじ)などを導入(とうにゅう)しています。低侵襲(ひんげん)であることはもちろん、場合(ばいばい)によっては治療(ちりょう)が必要(ひつや)な心臓(しんざう)の筋肉(きんく)の病変(びんぺん)かどうかなどもより分かりやすくなります。

これら最新の医療技術(いりょうぎじゆつ)で、心臓(しんざう)に対して高速(こうすい)スキャン(キャン)が可能(可能)になり、イメージクオリティーが



最新鋭の検査・治療機器を導入したカテーテル室

## 地域医療を見据えた 世界水準のクリニックを

―華岡青洲の医療(いりょう)に対する考え(か)え方やポリシー(ポリシー)とはどのようなもの(もの)だったのでしょうか。

**五十嵐** 青洲(せいしゅう)の医療(いりょう)に対する考え(か)え方を示(し)した言葉(ことば)として「内外合(ないがいごう)二(に)」「活物窮理(かつぶつきゆうり)」が伝えられています。「内外合(ないがいごう)二(に)」とは外科(げいこ)も内科(ないこ)もなく、患者(けしや)さんの全身(ぜんしん)の状態(じょうたい)を詳しく診察(しんさ)し、十分(じゅうぶん)把握(はくわく)した上で治療(ちりょう)するべきである(である)という考え(か)え方(かた)です。外科(げいこ)医(い)である(である)青洲(せいしゅう)が薬草(やくそう)を調合(てうごう)して麻酔薬(まよやく)を作る(作る)内科(ないこ)医(い)的(てき)なところ(ところ)も、この言葉(ことば)につなが(な)がっている(っている)の(の)かもしれません。「活物窮理(かつぶつきゆうり)」は治療(ちりょう)対象(たいさう)はそれぞれ異なる(異なる)特質(とくしつ)をもった人間(にんげん)なので、人(ひと)を治療(ちりょう)する(する)のであれば、人体(てい)について(について)の基本理論(きほんりろん)を熟知(じゆんち)し、深く観(かん)察(さつ)

して患者(けしや)さんや病氣(びんき)の特質(とくしつ)を把握(はくわく)していく(いく)べき(べき)である(である)という考(か)え方(かた)です。青洲(せいしゅう)は漢詩(かんし)をたしなむ文化(ぶんか)人(ひと)でもあつた(あつた)よう(よう)で、解釈(かいさく)としては、これ以外(これいがい)にもさまざまな意味(いみ)があつた(あつた)と思います。

―最後に、五十嵐(いそ)先生(せんせい)の目指す(めざ)す医療(いりょう)をご紹介(ごうかい)ください。

**五十嵐** 先(ま)の二(ふた)つの言葉(ことば)には、医療(いりょう)技術(ぎじゆつ)が高(たか)まり専門性(せんもんせい)が高(たか)くなつてきた(きた)がゆえに、自分(じぶん)たちの専門(せんもん)分野(ぶんぎや)以外(いがい)に対応(たいおう)できない(できない)医(い)者(しや)、病氣(びんき)を診(しん)て患者(けしや)を診(しん)ない(ない)医(い)者(しや)に対する警告(せいご)のように感じ(かん)じるときもあつた(あつた)ります。青洲(せいしゅう)は常(じょう)に何がベスト(べすと)である(である)のか(のか)を苦惱(くなう)の中(なか)妥協(たうぎやう)することなし(なし)に探し(さが)し、麻酔薬(まよやく)を完成(じゆうせい)させ多数(たうすう)の(の)人(ひと)を救(すく)い、弟子(でし)たち(たち)を育(そだ)てました。私(わたし)たち(たち)も何がベスト(べすと)な治療(ちりょう)なのか(のか)を常(じょう)に考(か)えながら、進歩(しんぽ)を続ける(つづ)ける医療(いりょう)と向き合(むか)ひ、提供(ていき)していく姿勢(しせい)を失(う)わな(な)いよう(よう)にしたい(したい)と思(おも)っています。華岡(はなおか)青洲(せいしゅう)とい(い)う(う)た(た)と(と)一(いち)生(せい)届(とど)く(く)こ(こ)の(の)ない遠(とほ)い背(せい)中(ちゆう)であ(あ)つても、それ(それ)を追(お)いかけていく決意(けつぎ)をした(した)か(か)らには、ス(ス)タッフ(たつぷ)ととも(とも)に高い志(たかいし)と情熱(じやうねつ)を持(も)つて、地域(ちいき)医療(いりょう)を見据(み)え(え)た世(せ)界(かい)水(すい)準(じゆん)のクリニッ(クリニッ)ク(ク)を指(さ)し(し)てい(い)きたい(たい)と思(おも)っています。



### 五十嵐 慶一 院長

1984年北海道大学医学部卒。北海道大学病院第一内科入局、市立旭川病院にて初期臨床研修。89年国立札幌病院循環器科・研究部で臨床・研究に従事。99年より北海道社会保険病院循環器科勤務。2005年、同心臓血管センターセンター長兼内科部長。16年8月より現職。医学博士。日本循環器学会循環器専門医。



設計：株式会社 DESIGN FIELD 施工：伊藤組土建株式会社

### 華岡青洲記念 心臓血管クリニック

診療科目 ● 循環器内科・心臓血管内科  
 診療時間 ● 月～金 8:45～12:00・14:00～17:30  
 土 8:45～12:00  
 休診日 ● 日曜・祝日 ※救急・急患は随時対応  
 病床数 ● 19床  
 所在地 ● 札幌市豊平区美園3条5丁目3番1号  
 TEL ● 011-350-5858  
 URL ● <http://hanaokaseishu.com>